

さいたま市テニス大会のルールについて

さいたま市テニス協会の大会では、「セルフジャッジ」審判方式を採用しています。

1. セルフジャッジについて

	サーバー	レシーバー
スコアのアナウンス	サーブを打つ前にレシーバーに聞こえる声で。	同意の声(ハイ、OK)またはハンドシグナル(大きくうなづく、手をあげる等)で応じる。不明、訂正はアナウンス後、即。
「アウト」・「フォールト」の判定とコール	ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。(ボールがラインにタッチまたはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」)判定とコールは相手に聞こえる声と明確なシグナルで速やかに行う。	
コール後の訂正	一旦「アウト」または「フォールト」とコールした判定を訂正したら失点。(ダブルスでペアのいずれか一方がコールを行えば、それが最終決定。ペアの判定が違った時、そのペアは失点。)	
サービスレット	コール出来ない。	コール出来る。
他コートからのボールの侵入等での妨害	レットをコールしポイントをやり直す。状況によってはレット取り消し、ポイント成立、→詳細はルールブックで。	
ラケット以外の着衣・持ち物を地面に落とした時	1回目は、レットのコールでポイントをやり直す。2回目以降は、落とすたびに失点。(ダブルスではパートナーが落としても失点:双方で確認の上再開する) *レットをかけずにプレー終了した時はポイント成立。	
スコアが判らなくなった時	双方が合意できる最初のスコアまでさかのぼり、それ以降の合意できたポイントを足したスコアから再開する。サーブをするエンドは、再開されたスコアに準ずる。(ゲームスコアも同様)	
ボールマークのチェック	クレールコートのみ	

2. 誤りの訂正 (誤りに気づいた時)

テニス規則に関わる誤りが発見されたときは、誤りに気づくまでに行われたポイントは原則として全て有効とする。

	サーバー	レシーバー
サービスサイドの誤り	直ちにスコアに応じたサイドからサーブをする。	左記に応じる。
サービスエンドの誤り	直ちにスコアに応じたエンドからサーブをする。	左記に応じる。
サービスの順番の誤り	気づいた時点で本来のサーバーに替わる。気づいた時すでにゲームが終了していた場合は、そのままの順番で続ける。タイブレーク・ゲームでは、偶数ポイントが終わった後で気づいた場合は直ちに正しい順番に戻し、奇数ポイントではそのまま続ける。	左記に応じる。
レシーブ隊形	そのまま	ダブルスでパートナー同士の隊形が入れ替わっていることに気づいた時、そのまま続け、次のレシーブのときに本来の隊形に戻す。

3. 次の場合はレフェリーか大会本部に申し出る。

- (1) 相手選手の言動やコールに疑問があるとき
- (2) プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こったとき
- (3) 試合中、トイレ等で一時的にコートを離れるとき
- (4) メディカルタイムアウト(怪我、筋ケイレン等で手当ての時間)を取りたいとき

レフェリー、大会本部への連絡は相手にその旨を伝え、第三者に依頼し、当人はコートに残る。

* 掲載したルールは日本テニス協会発行の「テニスルールブック」から、要約引用しました。レットのコールに関する

記述や判りにくい箇所の詳細は大会役員に聞くか、ルールブックでご確認下さい。